

## 臨床研究へのご協力をお願い

東京医科大学病院消化器内科では、下記の臨床研究を東京医科大学 医学倫理審査委員会の審査を受け、学長の承認のもと実施いたしますので、研究の趣旨をご理解いただきご協力をお願いいたします。

この研究の実施にあたっては患者さんの新たな負担(費用や検査など)は一切ありません。また個人が特定されることのないように患者さんのプライバシーの保護には最善を尽くします。

この研究の計画や研究の方法について詳しくお知りになりたい場合や、この研究に検体やカルテ情報を利用することを了解いただけない場合などは、下記の「問い合わせ先」へご連絡ください。ご連絡がない場合には、ご同意をいただいたものとして研究を実施させていただきます。

### [研究課題名]

潰瘍性大腸炎のサーベイランスにおいて大腸内視鏡が与える影響についての検討

### [研究の背景と目的]

潰瘍性大腸炎の患者数は年々増加し、比較的若年に発症し、10歳代後半から30歳代前半に好発することが知られている。また、高齢発症の潰瘍性大腸炎も決してまれではなく、近年は高齢者人口が増加しているため、有病者は次第に高齢層へと移動している。ただ潰瘍性大腸炎の原因はいまだ明らかにされておらず、診断後は定期的な大腸内視鏡による検査が推奨されている。炎症性腸疾患ガイドラインにおいては発症から8年後にスクリーニング目的の大腸内視鏡検査を行うことが推奨され、左側大腸炎型、あるいは全大腸炎型では、1から2年に一度のサーベイランス内視鏡が推奨されているが<sup>1)</sup>、活動性をふまえたサーベイランス内視鏡の期間や、内視鏡検査が与える発癌予防効果などは未だ不明である。潰瘍性大腸炎のサーベイ

ランスにおいて大腸内視鏡が与える影響について後ろ向きに検討する。

#### [研究の方法]

##### 対象となる方

2015年1月1日～2020年1月1日までに大腸内視鏡を施行した潰瘍性大腸炎症例。

##### 研究期間

倫理審査承認日から 2023年4月1日

##### 利用する検体やカルテ情報

この研究に関して新たに患者さんに行っていただくことはありませんし、費用もかかりません。この研究では当科において既に管理している患者さんのデータ（主に内視鏡検査による所見、潰瘍性大腸炎の発症時期、CT等の情報）を使用させていただきます。

##### 検体や情報の管理

この研究では当科において既に管理している患者さんのデータを使用させていただきます。患者さん個人のお名前や、個人を特定できる情報は一切公表いたしません。また、本研究に参加しなくても診療上の不利益は一切被りません。

#### [研究組織]

##### 研究代表者

東京医科大学病院 消化器内科

臨床研究医 篠原 裕和

##### 研究分担医師

東京医科大学病院 消化器内科 福澤 誠克

東京医科大学病院 消化器内科 河野 真

東京医科大学病院 消化器内科 山内 芳也

東京医科大学病院 消化器内科 杉本 暁彦

東京医科大学病院 消化器内科 森瀬 貴之

東京医科大学病院 消化器内科 松本 泰輔

東京医科大学病院 消化器内科 香川 泰之

東京医科大学病院 消化器内科 村松 孝洋

東京医科大学病院 内視鏡センター 河合 隆

東京医科大学病院 内視鏡センター 山口 隼

[個人情報の取扱い]

この試験の結果が公表される場合も、患者さんのプライバシーは守られます。本臨床研究で得られた成績は、医学専門誌などに公表されることがありますが、患者さんの個人名や個人を特定できるような情報が公表されることは一切ありません。

[問い合わせ先]

東京医科大学病院 消化器内科

電話番号 03 - 3342 - 6111 (代表) (内線) 62226

臨床研究医 篠原 裕和